

日本政府観光局、 タイ国政府観光庁が 相互観光促進に向けた 趣意書調印式を実施



日本及びタイの観光行政や観光関係者、メディアなど約50名が出席

1月18日、日本政府観光局（JNTO）とタイ国政府観光庁（TAT）は、日タイ間の相互往來の発展に向けた連携を強化する趣意書（LOI）締結の調印式をザ・ペニンシユラ東京で行った。

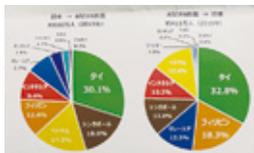
今後、日タイ両国の政府観光局は、両国の新たな旅行の魅力や訪

れるべき地域を相互に情報発信し、双方における地方誘客促進・強化といった課題に連携して取り組んでいくという。

コロナ禍前の2019年には日本からのタイへの渡航者は180・6万人、反対にタイからの渡航者は131・9万人と、双方合計で312万人に達していた。一般的な相互連携を通じて、日タイ間の速やかな相互往來回復に繋げていくとしている。

なお、TATでは2023年は海外からの訪タイ旅行客数「200万人」を目標に掲げている。このうち、日本からは約100万人（対2019年比で約60%）を

タイの観光業界にとって、日本は重要なマーケットの一つだという



「F」が発表された。食（Food）、映像（Film）、ファッションやデザイン（Fashion）、国技のムエタイ（Muay Thai）、お祭りやイベント（Festival）を世界に発信していくという。

ゴルフツーリズムに関してユッタサク総裁は「タイでは外国人の入国において、ワクチン接種証明書が1月10日から不要になりま



（左から）駐日タイ王国特命全権大使のシントン・ラービセートバン閣下、TATのユッタサク・スパソーン総裁、JNTOの清野智理事長、観光庁の星野光明国際観光部長

目指している考えだ。

そして、タイの新たな魅力を発信する分野として「5



TAT東京、大阪、福岡事務所の所長（カジョンドート・アピチャートラクン氏＝東京、タナワディー・スックサクンワット氏＝大阪、スタポーン・ワラポン氏＝福岡）も出席

した。ゴルフはタイの観光政策において非常に重要性が高いです。ゴルフをされる方は滞在期間が長く、ゴルフ以外にも観光を楽しむケースが多いので、一人当たり費やしていただける消費支出が非常に大きいです。今後、TAT東京・大阪・福岡事務所を通じて、ゴルフのための様々なプログラムを提供していく予定です。タイは現在においても良質なコースコンディションを保っているゴルフ場が多いですし、たくさんの方々の日本のゴルフファンの方々にタイにお越しただきたいと考えています。今こそタイでゴルフやりましょう！と期待を込めて話した。